



# ちはやあかさか

議会だより 第60号

## 春の千早川(マス釣場)



	ページ
3月定例会のあらまし .....	2
一部事務組合議会報告・研修レポート .....	3
いっぱん質問 .....	4 ~ 7
やまびこ・研修レポート .....	8

# 3月定例会のあらまし

平成14年3月の千早赤阪村議会定例会（第1回）は、3月6日に開会し、条例制定・改正、補正予算、平成14年度当初予算、意見書などを可決し、26日に閉会しました。

会計名	予算額	前年度比
一般会計	35億8570万円	7.6%
国民健康保険特別会計	6億2556万円	11.0%
老人保健特別会計	8億3912万円	5.8%
介護保険特別会計	3億8883万円	11.0%
下水道事業特別会計	2億7907万円	9.4%
金剛山観光事業特別会計	2億9276万円	60.7%
水道事業会計	2億5595万円	25.3%
合計	62億6699万円	5.0%

小児夜間救急医療事業 1億9400万円  
 810万円

いきいきサロン施設整備事業 1億2953万円

ごみ減量・資源化対策事業 913万円

くすのき号運行事業 1003万円

観光振興事業 1948万円

柵田地域等緊急保全事業 1602万円

中山間地域総合整備事業 3991万円

道路新設改良・維持事業 7701万円

1億1865万円

金剛山ロープウェイ施設整備

**平成14年度予算総額62億6699万円**

定例会初日に上程されました平成14年度の当初予算案件は、所管の常任委員会に付託し慎重に審議をおこない、25日の本会議において討論を経て原案どおり可決しました。

**予算の概要**



## 意見書

3月定例会では2件の意見書が上程され、BSE問題については全員賛成で可決、医療保険制度改善については否決（賛成3名・反対8名）されました。

**BSE対策の強化を可決**

BSE（牛海綿状脳症）の問題が発生して以来、国民の間に牛肉の安全性に対する不安が高まり、政府も

## 医療保険制度改善に反対を否決

小泉内閣は、医療費の国庫負担を減らすため、患者や国民に負担を押しつける計画です。今年10月から高齢者の窓口負担を1割に増やし、来年4月から健保本人・家族入院・退職者負担を3割に引き上げられま

**反対**

現在、国民医療費は年31兆円に達し、なお年に1兆円ずつ増加しています。一方、国保・政管健保・組合健保の制度間での負担と給付には大きな格差が生じております。安定医療の提供及び負担と給付の公平化のため、すべての国民を通じて医療保険制度の一元化を早急に実現させることが急務です。全国町村会等でも昨年11月に医療改革の緊急意見として国に働きかけています。今後は一元化の具体的な検討を早期に開始することを要望し、本意見書提出に反対するものです。

必要な対策を講じてきたが、依然として不信感は払拭されていない。これ以上、消費者不信の広がりを防ぐために以下の諸対策に全力で取り組むことを要請する。

**賛成**

国会に提出の医療保険制度改善法案は、健保の入院本人、家族窓口負担3割、国保の退職者70歳未満3割、70歳以上は通院の定額・上限額をなくし原則1割などです。さらに、高齢者の「社会的入院」の人は追加負担がまいります。日本共産党は、国庫負担割合を元にもとず。新薬シフトで高い薬価の引下げで適正化を。早期発見・早期治療で医療費の節減の3つの改革を提案しています。小泉政府の医療保険改善に反対の立場から意見書の採択を求めてきました。

全頭スクリーニング検査や肉骨粉の輸入・製造・使用等の全面禁止と関係者に対する助成。感染源・ルートへの解明。検査前の在庫の焼却。情報の公開。生産者等に対する損失補填。以上

# 汚泥再生処理センター

## 完成

平成10年度から4力年の継続事業で進めてきた富美山環境事業組合「汚泥再生処理センター」の建設工事は当初の予定通り順調に推移しており、本体工事はすでに昨年末に完成し、投入から、放流までのすべての機能を新設において11月から行なっており、その経過については量的・機能的にも設計値を十分クリアしています。また今回の更新工事については、し尿を処理することにとどまらず処理工程で発生する汚泥を資源化することが一番大きな目的です。汚泥処理は、当初の目的を十分達成し製品化されています。とくに肥料法改正にもない、汚泥については従来の特殊肥料から普通肥料に位置付けられ、使用される方々に保証書を提示することが義務づけられております。さらに主要な成分についても熟成されたものとなっており、なお必要な方はどなたでも持つて帰ることが出来ます。多量に必要な時は当センターのトラックで運ぶことも可能です。料金はすべて無料です。



# 一部事務組合議会報告

## 大和川下流域

### 下水道組合

平成14年度予算決まる  
平成14年2月5日、大和川下流域下水道組合定例議会が開かれました。

今年度予算総額28億1148万円が本会議で可決されました。

千早赤阪村の流域下水道供用がすみ、下水処理に係る負担金は1321万円、その他経費負担金392万円となっています。

平成12年度末の下水道組合市町村全体での普及率は78・1%です。本村は24・4%となっています。なお、平成14年度で小吹台中継ポンプ場建設が着手されております。

## 南河内清掃

### 施設組合

## 甘南備のゴミの山

### 処分に着手

13年度より各市町村によって協議が行なわれていたセイコー開発が廃棄をした不法産業廃棄物を、第一清

# 研修レポート

## 静岡県を視察

### 新国会・公明党

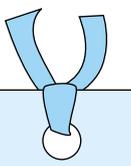
本年2月25日から26日に新国会・公明党の4人で静岡県静岡市を視察しました。目的は同県が取組んでいる「エコマネー」です。

同県は30%を越す地域が多く、住民間の交流を促すために「ふじのくにNPO活動センター」を発足、県職員はじめ各種のボランティアやNPOを会員としてつ

のり昨年11月に活動を開始しました。エコマネーは、お金では表わせない感謝の気持ちを表わすためのものですから、それで商品を買うという事は基本的には出来ません。たとえば漬物の指導をしてほしい人がいます。すると県職員のコーディネートがあらかじめ登録されている会員から条件に合った人を選び紹介します。サービスを受けた人は地域できめられたお金(工



コマネー)を渡す、そこから交流が始まるという仕組みです。住民間で家族のように助けあえる町づくりを目指して導入している地域がいま全国で多くなっています。人間としての温かい心を大切にしたいと痛感しました。



# いっぴばん質問

3月議会では、8人の議員が一般質問を行いました。  
一般質問の原稿（申し合わせにより500字以内）は、  
質問した議員の責任で作成したものです。

徳丸 幸夫 議員

森本 春雪 議員

## いきいきサロンの建設は総合的に検討を

〔問〕新年度予算で建設予定のいきいきサロンの規模や内容は。また、くすのき広場への建設は、他の施設との整合性を考えて、総合的に検討すべきではないか。

〔答〕建設場所は、くすのき広場北側半分、木造一部鉄骨平屋建瓦ぶき、面積は約500㎡、建物はくすのきホールと調和のとれたもの

にする。施設は陶芸室、手芸や詩吟などの多目的室、健康相談室、ラウンジなどを考えている。

施設はバラバラに建設するより、一カ所に集中するほうが、利用者にとっては利用しやすいので、くすのき広場を建設場所として選んだ。



いきいきサロン建設予定地

## 学校5日制に伴う村の具体的施策は

〔問〕4月から始まる学校5日制の完全実施による村の具体的施策について伺う。

〔答〕5日制は子どもたちに生きる力をはくくみ、すこやかな成長をつながすもの。そのため、土・日を利活用して様々な活動や体験をすることが望まれている。

現在、子ども会活動、世代間交流事業、文化・スポーツ活動に尽力をいただいている。

来年度から中学校区の地域教育協議会・村教育コミユニティをたちあげ、意識の高揚をはかるべく準備をしている。

また、子どもの週末支援事業についても前向きに検討している。

## 昨年に引き続きIT講習を

〔問〕21世紀の通信及び情報は、デジタル化の進展により、ますます高速化している。最近では、子供からお年寄りまで、パソコンを使い情報交換する時代になった。行政もその必要性を感じ、IT講習会を実施されたが。

一 講習会の開催数と参加人数は

一 講習会参加者の感想は

一 今年もIT講習会を開催して欲しいとの要望があるがその考えは

一 本年度の取り組みは

〔答〕講習会の参加人数は334名です。当初の予定は5月から7月を第1期として9月から10月を第2期として募集したが、参加者が多く、再度、第3期として11月から12月に実施して希望者全員に受講して戴けるよ



う配慮した。1クラス20名に3名のインストラクターの配置で実施したので、個別の指導も手厚く、受講者から、たいへん分りやすかったと好評を得ている。前回の講座はインターネッ  
ツト、メールの送受信が中心であったので、今回は初歩的な方も含め、新たにパソコンを使った簡単な文書作成、つまり年賀状などが作れるような講座を計画している。

## 村の観光産業の方策は

〔問〕平成8年に観光振興ビジョンが策定され村観光振興コンセプトが定められた。この事業も残すところあと4年となった。今まで実施した事業の投資効果を分析して今後の事業を検討すべき段階にきた。

〔答〕本村は大都市近郊農村地帯なのに農業従事者の高齢化、後継者不足で農林業は衰退の一途をたどるのではないかと危惧している。支援策を講じ積極的に農林業の振興に取り組む必要がある。

〔問〕観光整備計画に基づき事業の推進につとめてきた。今後は地域住民や各種団体と連携を図り、計画の達成にむけ取り組んで行く。

〔答〕村の基幹産業を取りまく環境は厳しいが、農林業のもつ多面的、公益的な機能維持をも重視し観光産業と農林業との連携を強め地域の活性化を目指して行く。

〔要望〕都市住民の余暇の利



遊休農地を活用した観光振興の取り組みを

用方法として費用をかけずに家族とゆつくり遊べるといった自然志向、自然回帰欲が高まっている。都市住民は緑に憧れ、土に親しむことを希望している。休日には家族で来村して耕作するならば作る喜び、土に親しむ喜びを味わい、そして土地提供農家は安定した収入が得られ、村の特産物、農作物を販売する相乗効果が得られると思う。村内の遊休農地を活用した取り組みを図りたい。

## 「生涯学習について（週5日制実施）」

〔問〕地域教育協議会の設置は。

〔答〕本村においても、「千早赤阪村教育コミュニティ」という名称で来年度から立ち上げるべく計画を進めている。組織として総務・企画委員会を中心に地域教育活動委員会、子育てネットワーク委員会、学校教育活動委員会の設置を想定している。

〔問〕各学校の特殊性は。

〔答〕各学校とも児童生徒や地域の実態をふまえて実践し特色を表しており、5日制の実施によって時間数の削減はあつても、その方向性は変わらないと認識している。

〔問〕個別指導（学力低下）は。

〔答〕児童一人一人の能力に合わせた課題別や個別の学習も重視し、学習の中で個別指導を大切にされた教育に努力していく。



赤阪小学校茶話会での一コマ  
(写真は記事の内容とは関係ありません)

## 小学校のありかた（統廃合）

〔問〕4月から設置される審議会の構成メンバーは。

〔答〕村議会議員代表、区長会・幼小中学校PTA、府教育委員会、幼小中学校園長・大学教授・元幼稚園問題審議会会長の他、行政職員、あわせて20名で構成を考えている。

〔問〕小学校を選べる自由選択制は。

〔答〕保護者の選択制の観点からは、長所があるかも知れないが、学校と地域のつながり等を考えると難しいと思う。

## 村都市計画の見直しを

〔問〕都市計画指定以降、村を取り巻く状況は大きく変化している。都市計画は法律によって指定された以上、法律にあわなくなつたら遅滞なく見直すべきでそれが行政の責務と思つが村の見解は。

〔答〕都市基盤整備等進めるには都市計画は必要であるが、政令指定要件の人口について該当していないことを真摯に受け止めている。

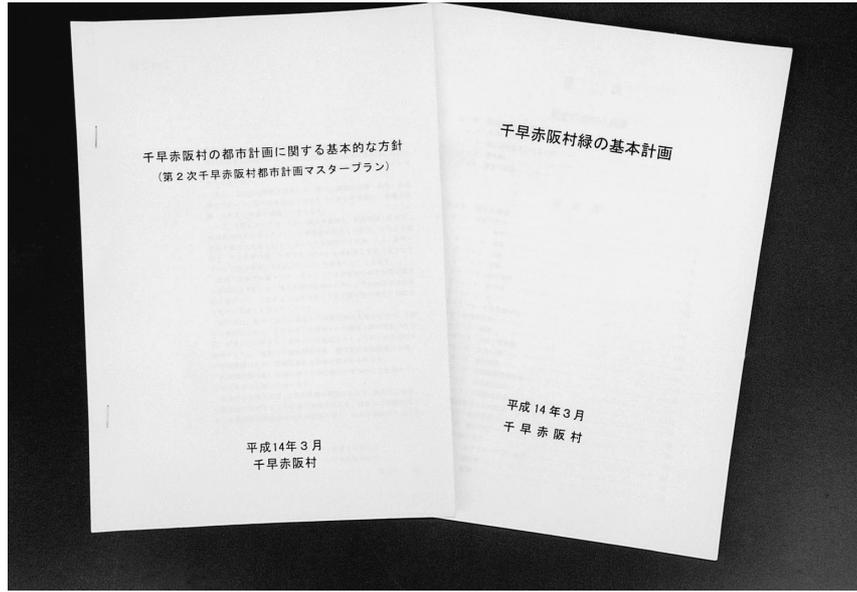
〔問〕国道309号バイパス沿線の開発について調整区域であるが開発の手法は。

〔答〕調整区域であるが沿道施設としての立地が予想される。土地所有者の意向・状態を見極めたい。

〔問〕全域、都市計画指定に対する村審議会の異議は。

〔答〕異議はなかつた。  
〔問〕都市基盤整備実現への具体的手段は。

〔答〕西部市街地と北部市街地を結ぶ道路は都市計画道路では困難なので既存道路を利用。公園計画は総計の



年次計画で実施。市街地の整備は既存集落、調整区域は開発許可制度を活用し地区計画は府と相談する。

〔問〕地区計画は法律の運用指針で不可能では。  
〔答〕村にあつた計画を府と相談している。14年度中に

まとまる。  
〔問〕村都市計画の諮問の内容、前回答弁のあつた近郊整備区域との答弁は間違いか。  
〔答〕資料なく答弁なし。

## 奨学金制度の実施を

〔問〕小泉内閣は、不況のもとで、奨学金を利用する学生が増加するなかで、日本育英会を廃止し、新たな独立行政法人で奨学金施策を実施する改悪を計画している。大阪府も改悪計画だ。銀行ローンと違い、無利子あるいは有利子でも利率の低い奨学金制度の拡充が求められている。高校生への奨学金制度を実施しているところもあるが、高校・大学生への奨学金制度の実施を求める。

〔答〕国・府に要望する。義務教育の充実が基本で、村での実施はむづかしい。

〔要望〕試算もたえずに結論を出す、冷たい姿勢だ。試算をして、再検討すべきだ。

## すべての国保加入者に

## 保険証の交付を

〔問〕保険料滞納者に短期保険証や資格証明書が発行されるようになった。不況下で国保加入者が増加するなかで、いのちと健康をまもる立場から、すべての加入者に保険証を交付すべきだ。〔答〕特別の事情もなく一定期間滞納する世帯に対して、公平の観点から短期保険証などの交付はやむをえない。

## 柵田保全是村の活性化に

〔問〕村がお膳立てをして、イベントで終わるのでなく、会員の自主活動で村の活性化と経済効果につながる活動にすべきだ。  
〔答〕6回の保全活動で水路の清掃、耕作放棄地を耕作可能地に復元し、村を訪れる人に楽しんでもらえ、観光施設のPRになつている。



柵田ファンクラブによる保全活動

## 庁内LAN活用とホームページ充実を

○ 庁内LANにより、文章の電子化がすすめられます。事務の効率化だけでなく、今後の活用として情報公開条例による開示できるものにするこや村ホームページの充実にチームを組んで充実にすることが大切です。

○ LAN化により、情報交換や共有化をすすめ、電子自治体としての基盤の整備、また、行政ホームページについては、各課連携して充実に図りたいと考えています。



村のホームページ充実を

**合併特例支援 新たな借金に 是非が問われる**

○ 合併特例法で「夢の合併」と描く特例支援は、合併特例事業を全て地方交付税で手当て出来ない、優先と重点の予算配分をするとしており、約束されたものでないと思うが。

○ 財政支援措置は、合併特例事業に地方債の70%が交付税算入され、一般事業より有利であり、現在は措置されると考えます。

○ 4市町村の事業費試算は400億円余りで120億円新たな借金を生み「合併」の是非が問われます。

○ 全て事業化でなく協議会で精査されるものです。

○ 広域行政研究会の最終まとめの報告会を開き、意見を聞く場にする必要があります。

○ 地区説明会の実施を予定しており、意見を聴く内容にしたいと考えます。

## 財政維持のために具体策を

○ 村の財政は、高齢化による退職者の増加と人口減少により、税収が年々減少している。地方交付税は人口減少と国の政策により減額されつつあり、歳入は今後更に減少する傾向にある。

一方歳出については、人件費、公債費は今後も減少せず、介護保険・下水道等への繰出金などは増加の傾向にある。

その結果、基金(積立金)はピーク時に16億円以上あったものが、平成14年末には5億円前後に減少する見込みである。

このような状況を踏まえ、今後の財政維持の具体策をお聞きする。

○ 財源確保については村税の徴収率の向上を図り、地方交付税等については国・大阪府に強く要望して行く。歳出については創意と工夫による事業の実施、各経費についても、より一層精査し削減に努める。

○ 村は財政対策として

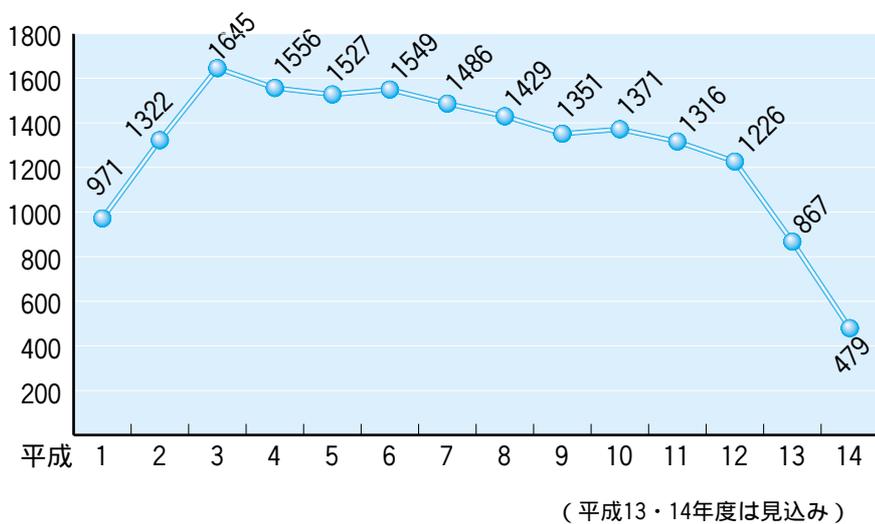
「定員管理と給与の適正化」を上げている。

民間企業では今、生き残りをかけてリストラを進めているが、村もこの際人件費について検討し、見直したい。

時期にきている。

いま急がれるのは、村独自で出来る、即効性のある対策を行うことであり、これの成果を是非見せて頂きたい。

基金残高(単位 百万円)



# やまびこ

## 不本見神社の餅まき

村内で活躍されている皆さん  
をご紹介するコーナーです。

氏子

K・O

不本見神社の山は、紀元前290年程も昔、孝霊帝の頃に一夜にして噴出した宝の山で、当時の人々は「夜山」或は「不本見山」と称したと言われています。役行者が天御柱神や蔵王権現、金伽羅童子を祀ったのが神社のはじまりということ。

その後、円通寺という寺もありましたが、明治の神仏分離令により、天御柱神、国御柱神を祀る神社が残りました。神社の春の例祭は昔から4月3日でしたが、近年は、4月第1日曜日午後1時から餅まき神事を行います。餅まき神事については、餅は正月の鏡餅や雑煮など様々な祝いごとに広く用いられ、特に特別な日に用い

られる餅には、昔から神霊が宿るといふような信仰的力があり、人の生命に力を与えるものと考えられています。神霊の宿った餅を神様よりの賜り物として氏子に分け与える神事として餅まきを行います。

餅の準備は七つある隣組単位で、毎年順番に餅つきをします。いろは・・・と餅に字を書き、字の書いた餅を拾うと商品が当ります。以前は、春の例祭に雨が降り、まいた餅に泥が付くと、「その年は豊作になる」と言われました。今年4月7日が春の例祭でした。



# 研修レポート

## 大子町を視察

無会派

大子町は茨城県の最北端に位置し、町内には「袋田の滝」(日本三名瀑の一つ)と五つの温泉があり、大変明るく健康的な町でした。

平成12年から介護保険が始まりましたが、同町の保険料が1533円(本村3111円)と、日本一安い保険料で運営されている実態について研修させて頂きました。

担当者の説明によりますと「もともと家族介護の意識が強いことと、高齢者に対する健康福祉事業を厚く行なってきたために、介護保険に頼らなくてもよい元気なお年寄りが多いこと」が保険料を安く出来た理由とのことでした。

また、高齢化率は30%を越えているが、「今後も保険料を安く抑えて、国の方針どおり在宅介護を中心に



制度の実施を行なっており」と、大変自信のある説明でした。

本村も、お年寄りが元気で、生きがいのある老後が過ごせる村づくりが望まれます。

## 編集後記

「春眠暁を覚えず」。中国の詩人、孟浩然「春暁」の冒頭です。この時期、朝起きるのがつらい人も多きはず。どうして春はこんなに眠いのか。冬至は1年で昼が最も短い日、その長さは夏至とは昼の長さが4時間以上も違います。したがって睡眠時間も夏は短く、冬は長くなります。動物たちが冬眠するのもこのためです。日の出が最も遅いのが1月上旬。それから少しずつ早くなり、春分の日のころその変化が最も大きくなります。朝が早くなるのに合わせて、目覚めも早く睡眠時間が短くなるので朝起きるのがつらくなるというわけですね。

私達、広報委員も眠い目をこすりながら読者の皆様に楽しく読んで戴ける紙面をと、悪戦苦闘して作成しました。皆様の感想等を寄せ下されば幸いです。

H M